

平成21年度 「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	「外部の力」と地元の連携によるコミュニティ創生事業
対象地域	岐阜県郡上市白鳥町石徹白
対象地域の概要	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【位置図】 福井県境に位置する。地区北部は白山国立公園。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【冬季の様子】 一晩で1～1.5mもの降雪があるため必ず屋根の雪おろしが必要となる。高齢者にとっては重労働で過疎化に一層拍車をかけている要因の一つ。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【夏季の地区の様子】 とうもろこしを中心に高冷地野菜栽培が行われる。しかし栽培可能期間が短く専業農家のみで生計は立てられる状況にはない。多くが冬季はスキー場でアルバイトをするなど副業を持っている。</p> </div> </div>
提案内容の概要	<p>移住者・二地域居住者を増やすことで、過疎化・少子高齢化で維持が困難な地域コミュニティを再構築する。そのために、暮らしやコミュニティの魅力を発信する取り組みと、移住後の生計手段にもなり得、コミュニティ活動にも参加する「結い」的交流機会を提供するとともに、地区内の受入体制を整備する。</p>
提案する活動の内容 (1) 地域の課題	<p>本石徹白地区は、10年間で人口が約17%減少、高齢化率も約45%に達するなど、過疎化と少子高齢化が進んでいる。このため、自治会・PTA・消防団等のコミュニティの役職を、一人で或いは一家族内で何役も受け持たねばならない事態が生じている。また、一戸当りの負担金も人口減少と比例して増加しており、特定の人への役職集中と併せ、活発なコミュニティ活動が行えない要因となっている。</p> <p>例えば、地区公民館・自治会が主催する「白山清掃ボランティア登山」という行事も、戸数減少による負担金増加とスタッフができる青壮年世代の人口減少等でこれまで通りには行えなくなっている。</p> <p>地域文化についても同様で、少子高齢化による担い手不足と負担金増で白山信仰に関わる貴重な文化遺産であっても継承の危機にある。</p> <p>このように、本地区は、過疎化と少子高齢化が原因で、現状のままでは地区内の様々なコミュニティ活動が継続できない状況にあり（もしくはそうなると予見されており）、新しいコミュニティの在り方を早急に構築しなければならないという課題を有している。</p>
(2) 活動内容の案	<p>活動①：暮らしを知る「石徹白ファン」獲得事業</p> <p>内容：暮らしを知るコアな「石徹白ファン」を獲得するため、次の活動を行う。</p> <p>1) 「石徹白塾」開催による暮らしの魅力のPR 本石徹白地区にはリピート率が高いイベントがいくつかあるが、イベント内で完結してしまっている。しかしこれらのイベントへのリピーターは暮らしを知るコアな「石徹白ファン」になって貰いやすいことから、彼らを主たる対象として「石徹白塾」を開催、地区の暮らしを伝える。 具体的には、「白山清掃ボランティア登山」(7月下旬)や「釣り教室」(6月～8月頃)の前後中日のいずれかに「石徹白塾」を開催する。会場は、平成20年度事業で、出身者ら「外部の力」を借りて修復した石徹白伊織家他を想定している。 なお、「石徹白塾」はイベント等とあわせて原則1泊2日以上となるようにし、地区内の民宿・旅館へ宿泊してもらうことで、経済的活性化も図る。また、次年度以降も継続開催できるよう、旅行会社との連携を図るなど、ビジネス・ベースに乗せるための検討も行なう。</p> <p>2) 「おたより」の発行による暮らしの魅力のPR 暮らしの魅力をPRする手作り「おたより」を発行し、「石徹白塾」参加者や地区出身者を中心に配布するとともに、イベント時や市内の観光施設等へ配架する。 「おたより」の作成者は「ササユリの会」を想定している。「ササユリの会」はほとんどが地区外から嫁いできた女性で構成されているため、外から来て暮らしている視点からの魅力をPRすることで、潜在的移住・二地域居住希望者の視点に近い「おたより」を作成できるものと思われる。 また、平成21年度の事業終了後も継続発行できるような体制づくり(資金源等)の検討を行う。</p>

活動②：「結い」的交流提供事業～石徹白版農業ワーキングホリデーの実施

内容：農業体験をしてもらいながら地域コミュニティ活動へ参加してもらう。

本石徹白地区は、とうもろこしやほうれん草、石徹白かぶらなど高冷地野菜の生産がさかんである。地区に短期滞在してもらい、移住・二地域居住後の生計を立てる手段としても現実性の高い農業に携わってもらいながら、地域コミュニティ活動にも参加してもらう。その際には、世話人を立てることとする。世話人は農業技術を指導するばかりでなく、コミュニティ活動へ参加する付き添い役にもなり、自分で対応できない場合は、地区内の他の人を紹介し体験者が円滑に地域コミュニティ活動等へ参加できるよう調整も行うものとする。

また、石徹白地区内の民宿・旅館は兼業農家も多く、スキー客がある冬場に比べて夏場は利用者が少ない。「農業ワーキングホリデー」は地区内の民宿・旅館の活性化にもつなげる可能性を有しており、ビジネス・ベースに乗せることができれば、新しい雇用の場の創出にもつながることから、民宿・旅館などと連携しながら行うものとする。

活動③：受入体制構築事業

内容：移住・二地域居住希望者が出てきた場合に対応できるような受入体制を構築する。

1) 空き家データベースの構築

地区内の空き家について、所有者や建築年代だけでなく、間取りや下水の有無など「暮らす」ことに視点を置いた空き家情報の収集を図る。

2) 受入システムの構築と対外的窓口の設定

交流・移住・二地域居住希望者に対応する受入システムを構築するとともに、窓口を設置し運用する。

活動④：事業の検証と改善作業

内容：次年度以降、より効果的な活動とするための検証と改善を、地域づくりの専門家（名古屋学院大学・古池嘉和教授を想定）にアドバイザーとして参加してもらいながら行う。

応募団体名	石徹白地区地域づくり協議会
リンク	
部局／担当者名	会長 石徹白 剛
連絡先	(0575) 86-3402
推薦市町村名	岐阜県郡上市